

めざせ「いきいき 明治っ子」

～ はきはき どんどん ぐんぐん ～

<http://www.meiji.jorne.ed.jp/>
E-mail → meiji@jorne.or.jp

感染症から体を守り、 毎日元気に過ごしましょう

このところ気温が下がり、山々が白く雪化粧をするなど、冬の訪れを強く感じるようになりました。これからの季節は、インフルエンザや胃腸炎など様々な感染症が広がる心配があります。

先日の児童朝会で、健康委員会の子どもたちがウィルスに扮して、かぜやインフルエンザに関するクイズを出しながら感染症予防を呼びかけました。みんながよく知っている基本的な問題ばかりでなく、専門的な難しい問題も出題され、健康な生活を送るために大事なことを楽しく学ぶことができました。今のところ明治小学校で流行の兆しはありませんが、みんなで力を合わせて感染症を防いでいってほしいと思います。

また、ご家庭でも十分に健康管理に気を付けてください。人が集まる場所への外出を控えたり、マスクの着用やこまめな手洗い・うがいをしたりして予防するとともに、規則正しい生活を送ることで「栄養」と「休養」を取ることで、適度な運動をすることも大切です。そして、家族みんなで協力することがとても大事になります。よろしくお願いいたします。

また、ご家庭でも十分に健康管理に気を付けてください。人が集まる場所への外出を控えたり、マスクの着用やこまめな手洗い・うがいをしたりして予防するとともに、規則正しい生活を送ることで「栄養」と「休養」を取ることで、適度な運動をすることも大切です。そして、家族みんなで協力することがとても大事になります。よろしくお願いいたします。

なお、お子さんの体調が優れない場合は、早めに医療機関を受診するようお願いいたします。インフルエンザ等にかかった場合は、すぐに学校にお知らせください。



健康委員会のクイズに回答する子どもたち



かぜのウィルスに扮した健康委員会の子どもたち

大きな森のおばあちゃん

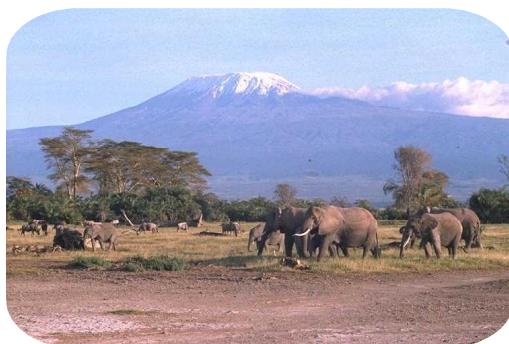
12月4日（水）の全校朝会で、次のような話をしました。

アフリカ象は、一年に一回お祭りをするのだそうです。普段は家族単位で、何百キロという距離に散らばって生活をしている象の群れが、どこかで打ち合わせでもしたかのように、一つに集まります。しかし、このとき以外にも、象が群れを作るときがあります。それは、象が危機に瀕しているときです。水もなく、食べ物もなく、生きていくのが難しくなったとき、その群れは何千頭にもおよびます。そのリーダーはおばあちゃん象です。



ある年、ケニヤやその隣のタンザニアで干ばつになり、象が群れになって移動を始めたことがありました。その移動の様子から、水と緑がたくさんある、ちょっと高いところに向かっていくことがわかりました。そのとき、環境保護運動の人たちの間では大きな議論が巻き起こりました。「そんなにたくさんの象が、限られた範囲の密林に入ってしまうと、ざっと計算しても、すぐにその森には食べ物も水もなくなってしまう。そして、もともとその森に暮らしていた動物たちも絶滅してしまうだろう」というのです。そこで、人間が象の半分くらいを間引いて（殺して）数を減らしてしまうか、否かということが大議論になりました。しかし、そうこうしているうちに、象たちは新しい森に入りました。予想どおり、象たちが食べてしまうため、明らかに緑が減ってしまいました。

ところが、一週間もたたないうちに、群れのリーダーであったおばあちゃんの象が森を出て遠ざかって行きました。すると、それに従うかのように、何頭もの象が森を出て行き、ひからびた川まで行ったのです。そこで象たちはばたばたと死んでいきました。最初に死んだのはリーダーの象でした。そこは象たちの死体であふれる悲惨な光景となりました。



その三年後に大雨が降りました。何十年に一回の大雨でした。この雨により、ひからびた川にも水が流れるようになりました。そしてしばらくすると、そのままの状態ですべて死んでいた象のなきがらから、緑が生まれてきました。象のお腹の中に、森で食べたいろいろな植物の種があったからです。象の腐ったなきがらは栄養分を含んでいますから、そこで芽をふいた植物の生長は、通常の何倍もの速度でした。そしてものすごいスピードで森が作られ、減りかけた以前の森と合わせて、さらに大きな森が誕生しました。

これが自然の摂理というものです。大自然の中で生きるものたちは、自らの知性で自分の役割をしっかりと果たし、地球の大きな命のバランスを保っているのです。すべての命が地球上で一つにつながっているのです。私たち人間はどうでしょうか。自分勝手な小さなことにとらわれて、大きな間違いを犯してはいないでしょうか。

ときにはこんな話も参考にしながら、広い心で物事を考えたり、地球にやさしい活動を心がけたりしていきたいものですね。